

芸術に 恋に 生きた女の哀しみを奏でる華麗なる終楽章——巨匠と大女優の初顔合せて贈る待望の名作



イングリッド・バーグマン
リヴ・ウルマン

レナ・ニーマン+ハルヴァール・ピョルク
グンナー・ビョーンストランド+リン・ウルマン

監督・脚本イングマル・ベルイマン

撮影監督スヴェン・ニークヴィスト

音楽ショパン(「プレリュード」2番(短調))

バッハ(「組曲」第4番変ホ長調)

ヘンデル(「ソナタ」へ長調)

スウェーデン映画+ベルソナフィルム製作+カラー作品

東宝東和提供

秋のソナタ

Autumn Sonata: Ingmar Bergman + Ingrid Bergman.



秋のソナタ

イングマール・ベルイマン監督
Autumn
Sonata
スウェーデン映画
カラー作品
東宝東和提供

●「秋のソナタ」の魅力は、何と云っても戦後ハリウッドを代表する大スター、イングリッド・バーグマンと、スウェーデンの生んだ世界的巨匠イングマール・ベルイマン監督の初顔あわせにある。また、バーグマンはこの作品を自分の最高の演技と認めて、映画界引退を宣言したので、目下のところ彼女の最後の出演映画でもある。もっとも最近の外電によると、一九六九年から七四年までイスラエル首相を務めた故ゴルダ・メイア女史の半生を描くテレビ映画「ゴルダという女」の出演を口どきおとされたというニュースもある。

●この映画は、イングマール・ベルイマンの一九七八年の作品で、監督処女作「危機」(46)から数えて38本目の劇映画である。シナリオは、ベルイマン自身によるオリジナルで、彼は次のように語っている――『考えてみると、母と娘との関係を手がかりにした文学や映画は意外に少ない。そこで私は、両者の間の緊張を扱ったものを一本撮ってみようと思った』。



このテーマを映画の内容に即して言いなおせば、それは『母と娘のおたがいのエゴの衝突』であり、あるいは『溺愛されていくようにみえるけれど、実はおもちやにすぎぬ者の怨念』である。当世風なら『翔んでる女をママに持った娘の不幸』とも言えるだろう。この感情の底には、聖職者の子として、姉の多い家庭に育ったベルイマン自身の、屈折した幼児体験が反映しているかと思われる。

●かつて「鏡の中にある如く」(61)「冬の光」(63)「沈黙」(63)で、ベルイマンは「人間の苦悩に對する。神の不条理な沈黙」を責めた。それはその後「狼の時間」(68)などの「沈黙しているのは、実は人間同志なのだ」という認識に姿を変え、さらに「叫びとささやき」や「ある結婚の風景」(73)では、「人間の沈黙はどうにもならない」ことへのあきらめに達した。その極北に位置するものが「秋のソナタ」なのである。

●国際的なピアニストで、恋愛経験もきらびやかな母親役にイングリッド・バーグマンを起用したことは、ベルイマンのアイデアと思われるが、長く海外の映画界で活躍したバーグマン自身の実生活を映画の中のピアニストの経歴に何となく重ねあわせてみせるなど、彼の計算はなかなかみごとなものだ。ちなみにバーグマンはスウェーデン生まれであり、バーグマンはベルイマンの英語読みだが、二人は親類ではない。

ベルイマンから「秋のソナタ」のシナ



リオを届けられたバーグマンはそれがすっかり気に入って、むしろ彼女のほうから積極的に出演を申しこんだそうだ。地元の新聞評は「新しいバーグマンの誕生」と筆をそろえ、彼女自身も「今までで最高の作品に出演できて嬉しい。私の演技も、今までで最高だったと思う」と、満足足を卒直に語っている。

●共演は「仮面／ベルソナ」(66)以来ベルイマン作品の常連であるリヴ・ウルマン。少女時代のリヴを演じているリン・ウルマンは、実はベルイマンとリヴ自身との間の、同棲時代の娘である。

ストーリーの舞台は北部ノルウェーというところになっていくので、ロケーションはノルウェーで行われた。氷河に大地が削られた傷跡の、なだらかな丘のつらなりと暗い湖は、名撮影監督スヴェン・ニークヴィストの手で、人間たちのドラマの背景に深い陰影を落とすものとなっている。

スタッフ、出演者とも、いつものベルイマン組がガツチリしたチーム・ワークを組んでいるが、「私は好奇心の強い女の主演女優レナ・ニーマンとハルヴァール・ピヨルクはベルイマン作品に初登場である。

【スタッフ】

監督・脚本…………… イングマール・ベルイマン
撮影監督…………… スヴェン・ニークヴィスト
録音…………… オウヴェ・スヴェンソン
編集…………… シルヴィア・イングマーシュドッテル
美術…………… アンナ・アスプ
衣裳…………… インゲル・エルヴィラ・ベション
音楽…………… ショパン、バッハ、ヘンデル

【キャスト】

シャルロッテ(母)…………… イングリッド・バーグマン
エヴァ(その娘)…………… リヴ・ウルマン
レナ(同)…………… レナ・ニーマン
ヴィクトール(エヴァの夫)…………… ハルヴァール・ピヨルク
ヨセフ(シャルロッテの夫)…………… エルランド・ヨーセフソン
ポール(シャルロッテのマネージャー)……………
…………… グンナー・ビョーンストランド
少女時代のエヴァ…………… リン・ウルマン

10月10日(土)より
エキブ・ド・シネマ7周年記念
ロードショー

昭和56年度芸術祭参加作品
●地下鉄(都営三田線・新宿線)神保町駅・下車1分 国電(中央線)水道橋駅またはお茶の水駅・下車7分●神保町交差点

岩波ホール (262) 5252

お得な特別鑑賞券 1,050円

(当日は一般・学生とも1,500円)

労音会員に限り発売中!

上映時間	平日(一般)	1:00	3:30	6:30	■入れ替え制 自由定員制
	土・日・祝	12:30	3:00	5:30	